

明日のスケジュール信じ

普通の明日が来るのを信じていたのは東京でも同じだった。

一月十六日、銀座・ソニービル前。鹿児島指宿市の観光PRキャラバンが毎年、菜の花を携えてやって来る。道行く人に花束を手渡すのは「ミス指宿」の松田比佐代(三三)と寿美真子(三三)だった。松田はホテル勤務、寿は市職員。昨年五月にミスに選ばれた。

十二月半ば、指宿市では池田湖畔の計

十四ヘクタールに三百六十万本の菜の花が本土で最も早く咲く。キャンペーンは二十三回目だが、今年は重要な予定が入った。翌十七日、首相の村山富市(七〇)に菜の花を手渡す。

新宿で握りずしを食べ、日本橋の茅場町パールホテルの部屋に戻った。松田と寿がベッドにもぐり込んだのは午後十時。「ちゃんと花束を渡さなきゃ」

政界は慌ただしかった。十七日に新民

主連合会長の山花貞夫(五八)ら二十四人が社会党執行部に会派離脱届を出す手はず。社会党が分裂の危機を迎えている。それをけん制するかのように、首相公邸は新党さきがけの幹部らが入り。永田町のけん騒は翌日も続くはずだった。

● 霞が関の官僚たちも思い思いの休日を過ごした。消防庁震災対策室課長補佐の篠崎優(四六)は、千葉市美浜区磯辺の自宅でゴロ寝。夜になって翌日の仕事を思い出した。十九日までに「北海道南西沖地震調査検討報告書」をまとめなければならぬ。ため息をついた。

● 国土庁防災業務課長の犬野慎一(四六)も千葉県鎌ヶ谷市東初富の自宅二階のベッドに寝転がり、午前零時までフランスの歴史書「地中海」全五巻のうち四巻を読んだ。五巻目は明日だ。

● 長野県・野沢温泉スキー場の民宿「梅之屋」。神戸市児童館職員の佐々木純子(三九)はスキーのあと、馬刺しと山菜煮物で夕食をとった。バスに乗れば、明日は神戸だ。

● 神戸は、百万ドルの夜景が光彩を放っていた。十五日のラグビー日本選手権でV7を果たした神戸製鋼メンバーは、東灘区の社宅や自宅で疲れをいやしていた。主将の細川隆弘(三七)、平尾誠二(三三)

ら四人は翌夕、兵庫県知事、貝原俊民(六二)を訪ね優勝報告をする予定だった。

● 神戸市長の笹山幸俊(七〇)は妻翠(三七)の酌で酒のロックを飲み、午後十一時ごろ眠りについた。翌日は朝から予算の査定が待っていた。東灘区御影の市企画調整局長、山下彰啓(五五)は、布団の中で翌日の総事業費千百万円をかけたレジャーワールドプロジェクト発表の下準備をしていた。

● サンテレビアナウンサーの藤村徹(四四)は三宮のパブで飲んだ後、午前零時過ぎ、ポートアイランドのマンションに帰った。十七日は午後から大阪市内で映画試写会の司会をやる。「朝はゆつくりできるな」と、録画していたテレビドラマ「家なき子総集編」を見はじめた。

● だれにも明日のスケジュールがあった。神戸大工学部教授の室崎益輝(五五)は十七日から三日間、大阪市の大阪国際交流センターで開かれる第四回日米都市防災会議で、会議を仕切らねばならない。十六日は風邪で熱があつたが、午後三時過ぎに京都市左京区の自宅から大阪に向かった。都市防災学を専門にする室崎にとって、今年最初の大きな仕事だ。

● 米カリフォルニア州立大教授のグナ・セルバドゥレイ教授らと上六の小料理屋へ。石狩なべをつつきながら、地震の話題に移った。「最近、北海道から東北へ下がってきている。ひよつとしたら、次は関西辺り……」。思わず強く首を振った。



下山手カトリック教会

85年前、フランス人司祭が神戸初の日本人の教会として建設。戦災にも焼け残った(神戸市中央区で、2月8日撮影)